

第3回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

- 1 開催日時 令和8年2月4日(水) 午後1時30分から午後3時00分まで
- 2 場 所 松本市立博物館 1階講堂
- 3 出席委員 会 長 高山 智史 氏
副会長 横内 俊哉 氏
委 員 丸山 剛生 氏
委 員 池田 紫乃 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 青山 織人 氏
委 員 小嶋 和好 氏
委 員 本間 崇教 氏
- 4 事務局 曾根原教育長、赤羽次長、山名教育監、小口文化観光部長、遠藤スポーツ部長、清澤文化振興課長、廣田生涯学習課長、二木梓川地区地域づくりセンター長、輪湖スポーツ施設整備課長、小西教育政策課長、内山学校教育課長、内山学校教育課長、横山学校教育課施設担当課長補佐、堀金学校教育課学務担当課長補佐、降旗教育政策課長補佐、幅総括コーディネーター、有賀学校支援室指導主事、上嶋生涯学習課係長、篠原学校教育課施設担当主査、中島スポーツ事業推進課主事、寺社下生涯学習課主事、長坂文化振興課事務員、竹内教育政策課主査

<会議事項>

(1) 移行検討協議会委員役員の選出について

移行検討協議会委員として、新たに2名の委員を委嘱（高山委員、本間委員）
新井委員の辞任に伴い、委員の中から新たな会長を選出
高山委員が新たな会長として承認

(2) 部活動の地域展開による生徒の動向に関するアンケート調査結果について

幅総括コーディネーターが説明

(委 員) 生徒たちの生の声アンケートとして数字を残していくことは大事だと思う。現在部活動に所属している生徒の加入率は6～7割と感じている。地域クラブへの加入状況が40%に近づくことを学校としては期待している。また、生徒の感覚として部活と地域クラブの壁が少なからずあると感じている。生徒の気持ちや実情を見ていく意味でも継続してアンケート調査をしてほしい。

- (委員) 「IV地域クラブへの加入状況について」の問いの中に「地域のクラブ」とあるが地域クラブと意味合いは一緒か。また、まつチャレの活動に参加した生徒の割合がわかれば教えてほしい。(横内委員)
- (幅CO) 地域のクラブはまつチャレ以外の地域クラブも入っています。まつチャレの活動に参加した生徒の個別の割合は把握していません。

(3) 課題管理表の対応状況

降籜教育政策課課長補佐が説明。

- (委員) 来年度廃止するクラブの数を把握しているか
- (降籜課長補佐) 170部活ありますが、運動系、文科系あるいはクラブ種目によって廃止時期は違います。令和8年度末には全ての部活が終了する予定でいます。
- (委員) 新入生の説明会で市担当者からまつチャレや今後について説明いただき感謝している。市側で説明をしていただけることはありがたい。来年度について平日は部活があり、休日は部活がないと言った状況になり、指導する教員が大会は引率するが休日の練習試合は指導しない、といった形もあり、現場は違和感を感じている。
- (委員) 松本市は先進的に進めていると思うが、想定外のことが起こった際、学校も一緒に考えたいと思っている。

(4) 地域移行マネジメント支援の業務報告について

スポーツデータバンク(株)長瀬氏が説明

(5) 部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインに基づく取組みの方向性について

降籜教育政策課課長補佐が説明。

- (委員) 松本市の方針として、認定制度を受け入れない方向で進める場合は、資料に示されている国からの予算措置が受けられないということになるのか。
- (降籜課長補佐) 資料3 1枚目中段「(1)部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進」の内、①休日の地域クラブ活動の活動費等の支援と②経済的困窮世帯の生徒への支援は対象外となります。「(2)平日も含めた地域展開等の加速化のための重点課題への対応」についても一部、認定地域クラブが条件のものもありますが、基本的には対象になります。
- (委員) 理想は「各クラブが自走すること」ということであれば、国からの財源をあてにして、認定制度を受けるのは良いとは思わない。ただ、経済困窮世帯の補助はここご時世魅力的ですので、判断は難しいと感じる。クラブを運営する立場としては、決算報告等の事務処理を、3年毎に申請することはかなりの負担なので、国の補助金を申請せずに進めるクラブ

が多くなると思う。

(委員) 基本的には国からのいつ止まるかわからないお金を当てにするのは良くないと思う。ただし、経済困窮世帯への支援は必要であるため、中長期的な松本市の方針を研究する中で、経済的困窮者に対するサポート体制の整備を考えていく必要があると思う。生徒たちに周知していく過程で、「自分が参加できるクラブ=まつチャレ」と認識する仕組みができあがれば、あえて認定を受けなくても自走できる仕組みになると思う。松本市が自力でカバーできる仕組みができればよいと思う。

(委員) 国補助金は地域クラブの赤字部分を補填する制度と理解したが、スポーツと文化とに分けて単価に違いがあることはどんな根拠があるのか。根拠があやふやで何を目的としているのかよくわからない。加えて毎年報告義務がある。事務作業に追われて実態が無くなってしまわないか。本末転倒だと思う。

(委員) 国の補助に頼らず、松本市が市の予算で独自の仕組みで進めれば良い。
(曾根原教育長) 柄澤委員に質問ですが、クラブ運営側としては認定要件で厳しい点はどこでしょうか。

(委員) 資料3 2枚目 国が示す認定地域クラブ要件
NO1は条件的に厳しいこともある。審査する行政の判断にもよるが、合致しないクラブもあると思う。
NO2は適切な休養を取ることが心身の成長に繋がるというのが一般的な考えなので、どのクラブも理解している。
NO3の低廉な金額設定については、参加費が高くても通わせたい保護者がいれば成り立つので考え次第で問題ない。
NO4, 5, 6は問題ない。
NO7の学校との連携が最もハードルが高いと思う。学校訪問しているクラブは良いが、クラブによっては厳しい要件だと思う。

(委員) 学校としては、複数のクラブとの連携は煩雑さを考えてしまう。クラブに参加している生徒の情報はほしい。

(委員) 経済的困窮者への支援はスポーツ庁が支援するスキームなのか？困窮世帯への支援は就学支援として進めていると認識している。そのスキームの中でやっているのであればよい。国は余計なおせっかい。それよりも全体の就学支援制度の充実を図ることが大事だと思う。

(6) 令和8年度松本市立学校体育施設の開放に係る運用方法について
学校教育課内山課長が説明。

(委員) 楽器の取り扱いについて、検討中と説明を聞いたが、吹奏楽独特の事情があつてのこととは思いますが、備品管理の観点を含め、この方針がどういう方向で進んでいるか教えてほしい。

(内山課長) 現在楽器については専門業者が各学校の備品数量や状態を調査しています。まずは現状把握に努め、今後の計画を考えていく予定です。

- (委員) 在庫管理するという事は市で棚卸して、どこに吹奏楽部の生徒が何人いて、そこには何個必要でと市が間に入って調整していく予定なのか。この方針だとスポーツのクラブの進め方にも影響すると思う。
- (委員) 吹奏楽部の活動について、休日は保護者が主体となり、学校は使えないとの理解で良いか。学校が使えないから公民館を使わせてほしいとの要望が増えている。
- (幅CO) 学校の状況によりますが、顧問の先生が兼職兼業として携わる場合は土日も学校で活動できます。
- (委員) 筑摩野中学校で吹奏楽クラブが立ち上がって、楽器が学校にあるので、その場所で練習できる。信明中学校には本校の中に楽器があって、活動場所まで毎日運搬することは難しい。吹奏楽部の楽器の問題はどの部活より大きい課題。土日について、楽器を移動して活動するとなれば、方法を考えなければならない。

(7) 令和7年度ICTを活用した地域クラブ活動（オンラインクラブ活動）トライアル事業の結果について

小西教育政策課長が説明。

- (委員) この実証事業の結果、まつチャレの中でオンラインのダンス指導など、そういった形式も認めていく方向で良いか。
- (幅CO) 直接指導ができない場合であれば、オンライン指導の地域クラブも可能といきたいと考えています。
- (委員) オンラインで他人と合わない環境であればやってみたいといった意見もあると思う。山間地の対応をオンラインで進めると考えるのではなく、考え方を広げた方が良いと思う。
- (委員) この実証事業は山間地でやったことは良いと思うが、オールインクルーシブを考えると家で画面越しにやることを選択できることもいいと思う。まつチャレフェスタでもeスポーツもあった。色々な広い形でICTを取り入れることが良いと思う。
- (委員) ICTの話で、具体的に思い浮かんだ。運動部だけでなく、美術部でも対応できると思う。放課後の居場所を作るといったことだと認識している。一人一台の環境があるので、子どもの居場所を作る意味でも、美術のオンライン指導も良いと思う。

(閉会)